

追加実証データ

2009年11月

- 1、漢字のまちがい探し
- 2、画の十兵衛
- 3、絵を見て文を書く
- 4、漢字イラストカード1年、漢字イラストカード2年上下
- 5、漢字の宝島
- 6、ノイズキャンセリング・ヘッドホン
- 7、布巾から練習
- 8、ハートリーフクッション
- 9、「突然ですが」カード

サポートツール実証データ

実証研究実施者	山田 充 一般社団法人日本 LD 学会・特別支援教育士 SV 堺 LD 研究会
区分 1	国語
区分 2	書く
領域	字形
符号	1-d-02
困難	漢字の構成パーツが分かりにくい
困難の要因	形態認知
サポートツール	漢字のまちがい探し
学年	小学校 5 年生
試用期間	1 年間 、週 2 回
使用場所	通級指導教室
使用上の注意、条件	特になし
使用状況 ＜授業の構成等＞ 授業の流れ、授業中の使用時間 などを記入してください	一枚のプリントに 3 問比較する問題があり、足りないところを探して赤鉛筆で書き足す。 見つけることが出来たら、その下に、正しい文字を 3 回かいて、読み仮名も 3 回書く。
＜子どもの様子＞	<ul style="list-style-type: none"> ・ 難しい問題はないので、左右を見比べて、けっこう素早く見つけることが出来る。しかし、比較する段階で細部に注目している様子があり、何度もしていくうちに見つけるのもだんだん早くなってくる。 ・ 最後に三回書くのが面倒くさいこともあるが、もう一度上野お手本を見て漢字を書くので、間違えることはないので、書きたくと言うことはなかった。
留意事項	全体に提示したり、個人に提示したりすることができる。
評価	漢字の細かいところに注目する習慣がつくことで、普段の漢字学習でも自然と細部に注目する出来ることが多くなってきている。 手軽に出来るので夏休みの宿題などに出してもらったときも、抵抗なく取り組むことが出来ていた。
サポートツールの改善点	

サポートツールの概要

新作・・・作成の経緯

漢字の細かい部分が見分けにくい子どもたちに対して有効な指導方法はないかと模索する中で、漢字の一面をわざと抜いた漢字と正しい漢字を見比べることで細部に注目する習慣をつけ、さらに見分ける力も身につけられることをねらいにしている

No. 5上

漢字のまちがいさがし

月 日

名前()

- 左の正しい字とくらべて 右は、どこか足りません。足りないところを赤で書きましょう。
- 下に正しい字を3回 練習しましょう。読みがなも書いてね。

校 舎	校 舎	一 銭	一 銭	総 合	総 合

サポートツール実証データ

実証研究実施者	山田 充 一般社団法人日本 LD 学会・特別支援教育士 SV 堺 LD 研究会
区分 1	国語
区分 2	書く
領域	字形
符号	1-d-02
困難	漢字の構成パーツがわかりにくい 書くことに抵抗がある
困難の要因	形態認知 意欲
サポート・ツール	画の十兵衛
学年	小学校 6 年生
試用期間	週一回の通級指導の時間
使用場所	通級指導教室
使用上の注意、条件	書いた字を記録しておくことが大事
使用状況 ＜授業の構成等＞	漢字を置くシートの上に、画の十兵衛に付属している「ハネ、はらい、かぎ」などのたくさんのパーツをならべて、漢字を作っていく。出来上がった漢字の読みを確認してから、別紙に記録していく。最後にいくつ漢字を見つけたかを数えて確認していく。
＜子どもの様子＞	<ul style="list-style-type: none"> ・書かなくていいので、この課題については、嫌がることなく取り組むことが出来た。 ・慣れてくると「ことばの教室」に来る前に、どんな漢字を作ろうかと教科書の漢字のところを見てくるようになり、その頃から作った漢字の数が増えてきている。
留意事項	作った漢字の読みが分からなくても、こちらが読みを示して、漢字を作ることへの抵抗感を減らすようにする。
評価	<p>書くことに抵抗感があるために、なかなか漢字学習に取り組みず、そのため、印象でしか漢字を見ていなかったのが、予習でしっかり細部を確認してくるようになってきている。</p> <p>この児童は、不登校で自分の在籍校にはほとんど通えず、他校通級で週一回「ことばの教室」に通ってきている。「ことばの教室」での課題が「画の十兵衛」だったので、取り組みやすく、通級することへの抵抗感が大きく減った。通級指導教室に来た後、在籍校への放課後登校も定着してきている。</p>
サポートツールの改善点	

サポートツールの概要(写真等)



サポートツール実証データ

実証研究実施者	山田 充 一般社団法人日本 LD 学会・特別支援教育士 SV 堺 LD 研究会
区分 1	国語
区分 2	書く
領域	作文
符号	1-d-05
困難	主語述語を使って文を構成することができない
困難の要因	認知（主語、術語）
サポートツール	絵を見て文を書く
学年	小学校 2 年～5 年
試用期間	4 年間、週一回、現在も継続中
使用場所	通級指導教室
使用上の注意、条件	一回の指導で、7 枚ぐらいを文で表現する。
使用状況 ＜授業の構成等＞ 授業の流れ、授業中の使用時間 などを記入してください	動作や様子を表した絵カードを一枚、児童に提示し、どんな言葉を表している絵かを言わせる。その後、絵カード脳らに書いてあることばで合っているかを確認する。 確認できたら、その言葉を使って、この絵を文で書くとどう書くかをまず口頭で言ってもらおう。避ければ、そのまま、不適切な場合は、適切な文になるようなアドバイスをして、もう一度、口頭で言ってもらおう。言えなければ、こちらから「こう書くよ」というモデルを示す確認された文章を紙に書く。
＜子どもの様子＞	<ul style="list-style-type: none"> ・ キーワードをまず確認するので、何の絵かが分かる。 ・ 文に書くときも、まず口頭で言ってから、書くので書いた文は必ず○をもらえるので安心して書ける。 ・ 何度も何度も、このように文を作っていくので、主語述語の関係などが、次第に身についてきて、自分の力で文を書く能力が高くなってきた。 ・ 何度も言い直すことがなくなった。 ・ 作文がだんだん長く書けるようになってきている。 ・ 言葉数が増えてきている。
留意事項	その日の状態に応じて、書くカードの枚数を調節する。
評価	だんだん作文が長く書けるようになってきていることを喜んでおられます。 きちんと文で表現するトレーニングを積み重ねてきたので、文だけでなく会話でも、順序立てて話すことが徐々出来るようになってきたと喜んでおられます。
サポートツールの改善点	

サポートツールの概要(写真等)

新作

作文などで、主語述語を合わせて文を書くことが出来ない子どもたちに、どのように指導したらよいかを考えた。作文などでは子どもと指導者が場面を共有できないことも多いが、同じ絵カードを見ながら、それを文章化すると、指導者側がモデルを示しやすいということ、絵を見ながらだと子どもが書く前に復唱することも可能だということから、この教材を考案した。



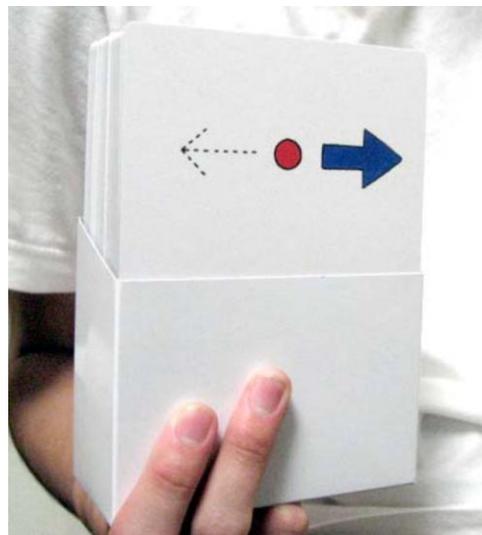
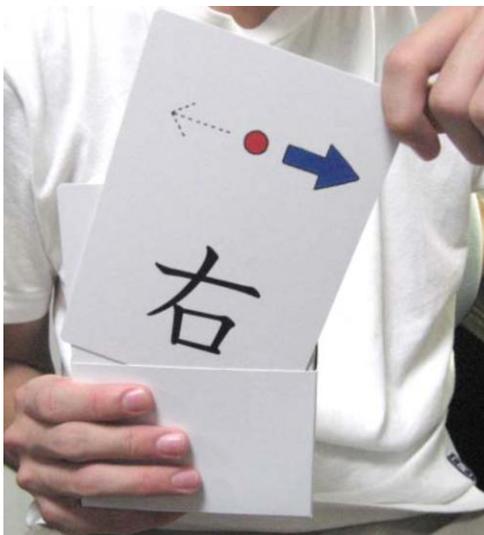
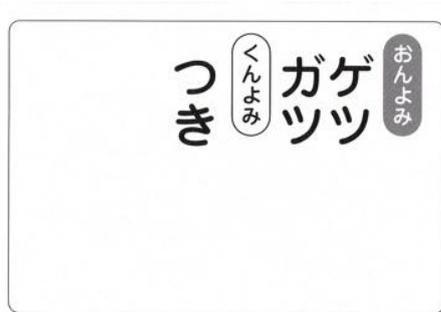
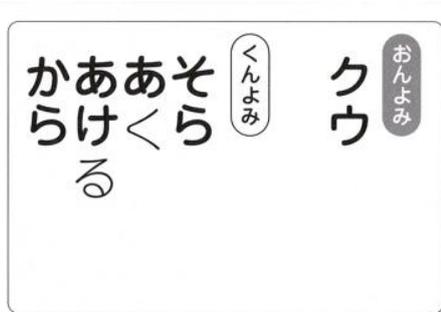
サポートツール実証データ

実証研究実施者	山田 充 一般社団法人日本 LD 学会・特別支援教育士 SV 堺 LD 研究会
区分 1	国語
区分 2	書く
領域	漢字と意味を結びつける
符号	1-d-07
困難	漢字の意味が取りにくい・漢字と意味を結びつける
困難の要因	意味の理解
サポートツール	漢字イラストカード1年、漢字イラストカード2年上下
学年	小学校4年
試用期間	5月（一ヶ月）
使用場所	通級指導教室
使用上の注意、条件	一人で学習する場面が有効
使用状況 ＜授業の構成等＞ 授業の流れ、授業中の使用時間 などを記入してください	<p>一対一の指導場面で、いくつかある課題の一つとして指導する。10分から15分ぐらいかかる。</p> <p>第1クール：絵だけを見て下に隠れている漢字を口頭で言わせる。必ず1セット80枚を毎回行う。全部言えるまで毎回繰り返す。</p> <p>第2クール：絵だけを見て下に隠れている漢字を書く。間違ったら3飼い練習する。必ず1セット80枚を毎回行う。全部書けるまで毎回繰り返す。</p>
＜子どもの様子＞	<ul style="list-style-type: none"> 漢字クイズの感覚であてていけると、最初は書かなくていいのでどんどん進むので楽しい。 前回と比較して、言えたり書けたりする枚数が増えていくので出来ているのが実感できる。 漢字の形よりも意味を先に考える習慣がつく。
留意事項	<p>何枚出来て、何枚出来なかったかを必ず記録しておく。</p> <p>答えたり、漢字を書いたりした後で、漢字イラストカードの下部の漢字を見せるときに、漢字の形の留意点を伝えていく。</p>
評価	<p>テストという感覚がないことと、出来ていく様子が枚数で確認できるために意欲が高まりやすい。</p> <p>家庭でも学校でも、どちらでも取り組める。</p>
サポートツールの改善点	

サポートツールの概要

新作…作成の経緯

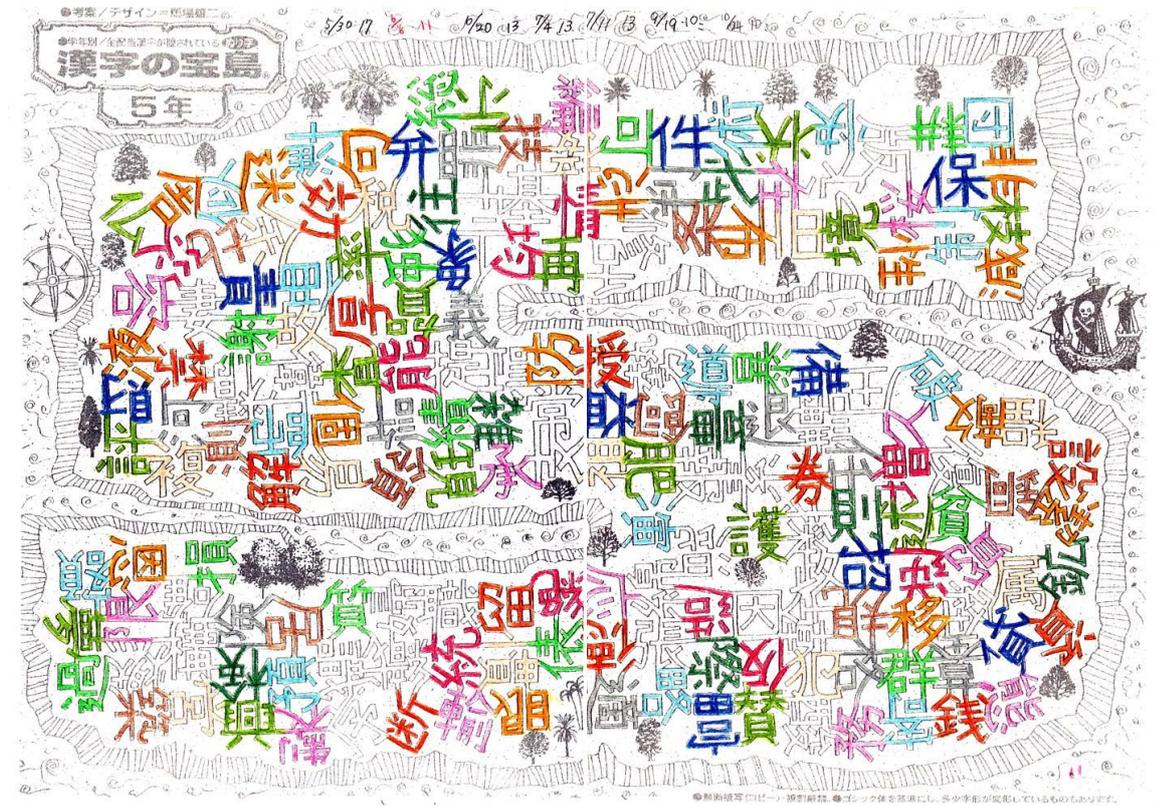
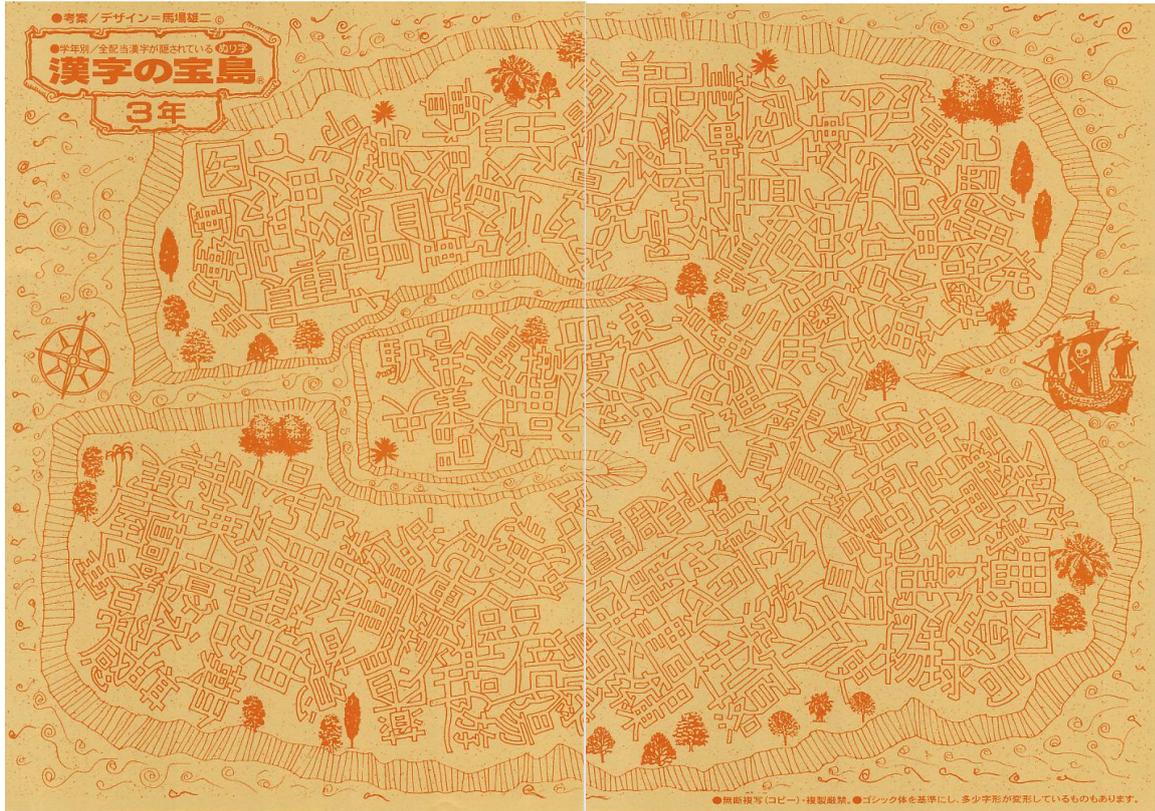
漢字の意味がとらえにくく、漢字のテストなどで意味を押さえられず、同じ音の漢字を当て字してしまう子どもが数多くいる。こういった子どもたちに、まず漢字の意味を覚えさせるために、作成した。また漢字を書くことが苦手で、書きたくない子への漢字指導の導入としても活用したい



サポートツール実証データ

実証研究実施者	山田 充 一般社団法人日本 LD 学会・特別支援教育士 SV 堺 LD 研究会
区分 1	国語
区分 2	書く
領域	漢字に興味をもつ
符号	1-d-08
困難	漢字に興味をもちにくい
困難の要因	意欲
サポートツール	漢字の宝島
学年	小学校 1 年～ 6 年
試用期間	1 年間 、週 1 回から 2 回程度
使用場所	通級指導教室
使用上の注意、条件	毎回色鉛筆の色を変えて、5 分間で見つけた漢字に色を塗っていく。
使用状況 ＜授業の構成等＞ 授業の流れ、授業中の使用時間 などを記入してください	指導の始めの方に意欲付け、集中も兼ねて取り入れている。 今まで使っていない色の色鉛筆を持って 5 分間のタイマーをかけて、漢字を探し始める。5 分経った後に、一緒にどんな漢字を見つけたかを確認していく。見つけたけれども知らない漢字は、こちらが読みとか意味とかを教えていく。 終わった後に実施した日付と見つけた個数をプリントに記録していく。
＜子どもの様子＞	<ul style="list-style-type: none"> ・ これを楽しみにしている子どもはとても多く、どの学年の子どもも漢字の宝島が好きである。漢字を知らなくても、見たことがある、これは漢字かな、と言う程度でも塗っていいので、どんどん進むところが理由だと考えられる。 ・ 漢字を思い出すよりも形を見て「知っているか」「これは漢字か」と考える方が、負担が軽いようである。 ・ 学年ごとにプリントが進級していくのも励みになると思われる。 ・ 5 分経ったら漢字の宝島は必ず終わるのも、取り組みやすさの要因になると思われる。
留意事項	全体をやみくもに塗ったりすることは禁止するとともに、なかなか見つけられない子どもには、「この辺」というようなアドバイスが必要。
評価	漢字の学習に抵抗感がなくなり、苦手な僕でも出来る漢字の勉強というような気持ちになってもらえているようだ。また、読みも知らなくても自分が見つけた漢字の読みは、覚える手がかりになりやすいといえる。また、この取り組み方から、その子どもの特徴も見えてくることもあり他の指導の参考になることが多い。
サポートツールの改善点	

サポート・ツールの概要(写真等)



サポートツール実証データ

実証研究実施者	山田 充 一般社団法人日本LD学会・特別支援教育士 SV 堺LD研究会
区分 1	その他の教科
区分 2	体育
領域	運動会
符号	3-e-02
困難	ピストルの音が苦手で運動会に参加できない
困難の要因	聴覚過敏
サポートツール	ノイズキャンセリング・ヘッドホン（ボーズ社）
学年	小学校5年
試用期間	春の運動会に向けての練習と本番
使用場所	運動場（教室、家庭での試用）
使用上の注意、条件	特になし
使用状況 ＜授業の構成等＞	運動会の練習と本番に「ノイズキャンセリング・ヘッドホン」をつけて参加する。
＜子どもの様子＞	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本当に音が小さくなってピストルの音が気にならないレベルに鳴ることを実感した児童は、今まで参加することすらできなかった運動会への参観に意欲的になった。 ・ 単に運動会に参加するだけでなく、徒競走そのものにも参加する意欲をしめし、ノイズキャンセリング、ヘッドホンを落ちないようにはちまきで固定してもらって、本番で走り抜くことができた。 ・ 運動会后、本当にいい笑顔で「運動会に参加できた。紅組が勝った」と報告してくれた。
留意事項	本番前に、家庭などで、テレビを大音響で書けて試用して、本当に騒音が消えることを実感する取り組みをしっかりとしておく
評価	<p>一年生の時の運動会に初めて参加して、ピストルの音にビックリして以来、学校の運動会に全く参加できなくなっていたのが、運動会への参加ができるようになったばかりでなく、ピストルがなる徒競走にまで参加して最後まで走りきることができたことに感動した。</p> <p>ピストルの音が怖いという困難の要因がこんな形で取り除けて、本人が生き生きと参加できることがわかりよかった。</p>
サポートツールの改善点	

サポートツールの概要(写真等)



サポートツール実証データ

実証研究実施者	嶋谷 和之 (社) 大阪府作業療法士会・日本感覚統合学会
区分 1	運動と姿勢
区分 2	両手を使う
符号	4-b-01
領域	両手同時の反対方向への動き
困難	ぞうきんを固く絞るのが苦手
困難の要因	把握力の弱さ
サポートツール	布巾から練習
学年	小1
試用期間	3ヶ月間
使用場所	通常の学級
使用上の注意、条件	35cm×30cm、重さ30gの布巾を使用した。 たたんで縫い合わせることはせずに、そのまま用いた。
使用状況 ＜授業の構成等＞	学校の掃除時間に使用。 布巾を四つ折りにたたむ練習と、たたんだ布巾を絞る練習をした上で、掃除時間に用いた。
＜子どもの様子＞	<p>【通常のぞうきんの様子】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぞうきんをきれいにたたまず、両手で丸めておにぎりを作るように押して絞っていた。ぞうきんを固く絞ることが困難で、少し水滴が落ちる状態であった。 そのぞうきんで拭くため、他児童より「ちゃんと絞りや」と指摘を受けることが多かった。その指摘に対して「絞った」と返答するため、「絞っていない」「絞った」と言い争いとなり、けんかになってしまうことが多かった。 ・たたみ方と絞り方を教えると、自分でできるようになった。しかし、ぞうきんの直径が大きくなるために力を入れて把握することができず、ねじるときにも力を必要とするために十分絞ることが難しく水滴が落ちる状態であった。本児童は「前の方が（両手でおにぎりを作るように押す方法が）、やりやすい」と言って、今まで行ってきた絞り方を続けた。 <p>【布巾をぞうきんとして使用したときの様子】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たたむ練習と絞る練習を行った。 たたむ練習では、手本を見せてから本児童にしてもらった。端をきれいに揃えてたためなかったため、揃えることを教えるとすぐできた。 絞る練習では、手本を見せたもののどのように手を動かすのか迷っ

	<p>ていたので、本児童の手を持って一緒に絞り、動かし方を教えた。 3回目には拭くために必要な程度まで固く絞れるようになった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・練習以後、掃除時間には自ら布巾を選択してぞうきんがけをした。言い争いやけんかはなくなった。 ・約1ヶ月後より、時々自ら通常のぞうきんを選択し、しっかり絞ろうと努力している様子が観察された。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  <p>ぞうきんとして用いた布巾 35cm×30cm 重さ 30g</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>四つ折りにした状態</p> </div> </div>
<p>留意事項</p>	<p>他児童も使用する可能性があるため、布巾を複数用意すると良い。</p>
<p>評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・拭くために必要な程度まで布巾を固く絞ることができたことから、通常のぞうきんでは力が入りにくく手の動かし方も解りにくい子どもに対して、布巾をぞうきんとして用いて絞りやすくすることは有効な手段と考えられた。直径が細くなり、ねじることに対する抵抗も減少することで、力が入れやすくなり絞り方を学習しやすくなると考えられた。 ・絞ることができたという成功体験は、繰り返しやってみようという積極性へとつながり、その中で力の入れ方や絞り方も向上したと考えられる。それがさらに、通常のぞうきんでもできるかもという前向きな気持ちとなり、自ら通常のぞうきんの使用へとチャレンジするきっかけになると考えられた。
<p>サポートツールの改善点</p>	<p>うまく折りたためない場合は、縫い合わせても良い。</p>

サポートツール実証データ

実証実施者	辻 薫 日本作業療法士協会・日本感覚統合学会・日本LD学会
区分 1	運動
区分 2	姿勢
符号	4-g-01
領域	姿勢保持
困難	舟をこぐ、椅子からずり落ちる、体が揺れる
困難の要因	バランス感覚が弱い、筋緊張が低い
サポートツール	ハートリーフクッション
学年	小3
試用期間	3ヶ月間
使用場所	通常の学級
使用上の注意、条件	
使用状況 ＜授業の構成等＞	座位保持クッションを使用して通常の授業を受ける。 講堂で体育すわりの姿勢で話を聞く時にも使用。
＜子どもの様子＞	離席はないものの、椅子で舟をこぐ、椅子からずり落ちる、体が揺れるなど姿勢保持の困難さが見られる。それに伴い、周りに座っている子とのトラブルもあり、「ことばの教室」の先生の勧めで、座位保持クッションを使ってみる。 今まで苦手だったことにもチャレンジしようとする姿勢も見られるようになり、図画を最後まで丁寧に色塗りし仕上げる。漢字学習も意欲的に取り組み、意識して一つ一つの文字を書こうと努力している。子ども自身、おしりが固定されるので体が揺れにくいと感じている様子。座布団があることで、怒られる回数も減り、自分に自信が持てているように見受けられる。
留意事項	
評価 保護者から声（家庭での様子など）	他のクッションも試してみたが、薄くて骨盤が固定され、またその位置が成長に合わせて換えられるこの商品が子どもには合っている様子。カバーが黒なので、名前を書くスペースがあると有難い。 骨盤を支える部分が、もう少し大きいものもあると選べていい。
サポートツールの改善点	

サポートツール実証データ

実証研究実施者	小暮洋子（所属）西埼玉LD研究会
区分 1	対人関係・社会性
区分 2	限定された興味やこだわり
符号	7-g-04
領域	変化への抵抗
困難	予定が変更になると、納得できない。
困難の要因	こだわり
サポートツール	「突然ですが」カード
学年	小学1年～小学6年
試用期間	1年間
使用場所	教室、その他
使用上の注意、条件	予定の変更の時、視覚的に解るように設定する
使用状況 ＜授業の構成等＞	いつもの予定が、何らかの要因で変更になる時、納得して、次の行動に移れるようにする。 天候の変化、時間の変更、他の要因による予定の変更を、視覚に訴えることにより、はっきりと明確にさせる 納得できるように、普段から、練習しておく
＜子どもの様子＞	このマークが出ると、 「あ、何か、あるぞ。という気持ちになり、集中して見るようにしている。」 「静かにして、次の、指示を聞こうという気になる。」
留意事項	目的に沿って使う 必要でないときは、むやみに、見せることがないようにする 出したときは、集中して話が聞けるように配慮する
評価	大声を出さなくても、集中して話が聞ける 予定の変更を、納得できる 次の行動にスムーズに移すことが出来る
サポートツールの改善点	効き目が無くなった時に、どうするか？

サポートツールの概要(写真等)

